

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校, 中学校)

第3編 単元(題材)ごとの学習評価について(事例)

【案】

第1章 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

- 1 本編事例における学習評価の進め方について
- 2 単元(題材)の評価規準の作成のポイント
 - (1) 算数科における単元及び単元の目標を作成する手順
 - (2) 単元の評価規準を作成する手順
 - (3) 「内容のまとまりごとの評価規準」をもとに、「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」を作成する例
 - (4) 「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」から、「単元の評価規準」を作成する例

【参考】「具体的な内容のまとまりごとの評価規準」一覧

第2章 学習評価に関する事例について

- 1 事例の特徴
- 2 各事例概要一覧

事例

事例1 指導の計画から評価の総括まで「あまりのあるわり算」(第3学年)

国立教育政策研究所
教育課程研究センター

第1章 「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

1 本編事例における学習評価の進め方について

各教科の単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように進めることが考えられる。なお、複数の単元にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらない事例もあることに留意する必要がある。

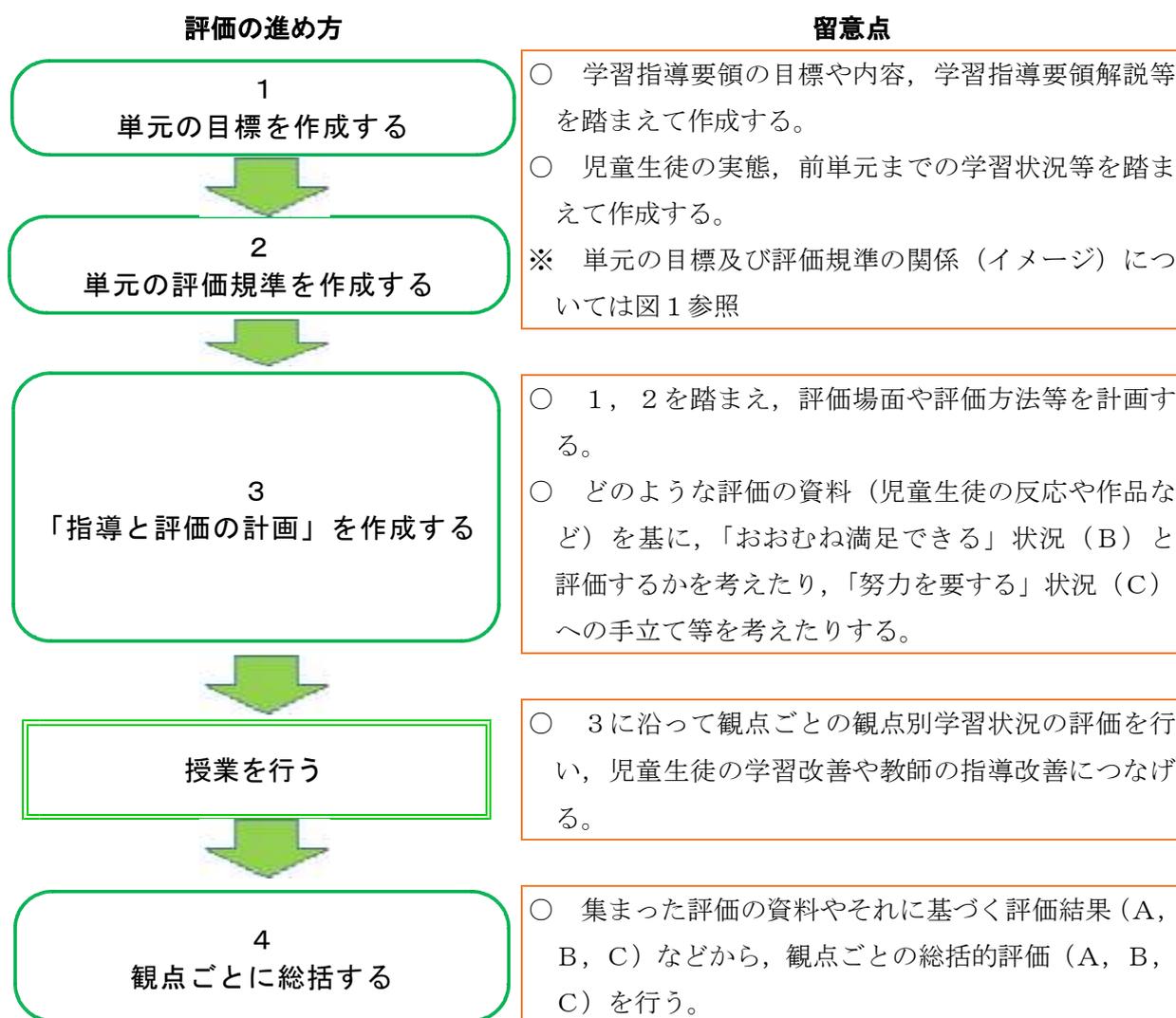
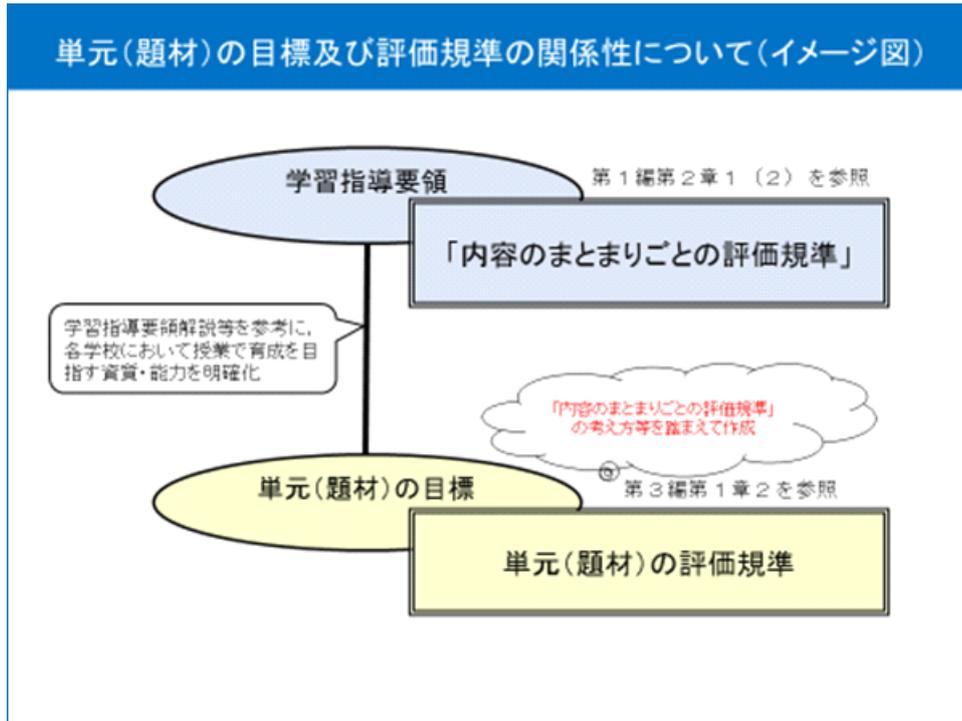


図 1



※ 調整中

2 単元の評価規準の作成のポイント

(1) 算数科における単元及び単元の目標を作成する手順

算数科においては、「内容のまとまり」を第2編「1 小学校算数科の内容のまとまり」で示しているように、「内容のまとまり」で示された内容の数が、学年や領域ごとに違いがあることから、指導する際の授業時数も「内容のまとまり」ごとに大きく異なる。例えば、20数時間かかる「内容のまとまり」もあれば、10数時間で終わってしまうものもある。中には1, 2時間で終わる「内容のまとまり」もある。

単元は、児童に指導する内容を適切にまとめて構成されるものであるが、各学校において単元を作成する際には、「内容のまとまり」を、幾つかに分割して単元とする場合やそのまま単元とする場合、幾つかの「内容のまとまり」を組み合わせる場合があるので、このことに留意が必要である。

表1 算数科における「内容のまとまり」と単元の関係(例)

「内容のまとまり」	単元(例)
第2学年「C測定」(1)長さやかさの単位と測定	単元「長さ」 単元「かさ」
第2学年「C測定」(2)時間の単位	単元「時刻と時間」
第3学年「A数と計算」(4)除法	単元「わり算」 単元「あまりのあるわり算」 単元「大きな数のわり算」
第4学年「A数と計算」(6)数量の関係を表す式 第4学年「A数と計算」(7)四則に関して成り立つ性質	単元「式と計算」
第5学年「B図形」(3)平面図形の面積	単元「平面図形の面積」
第6学年「B図形」(1)縮図や拡大図, 対称な図形	単元「縮図や拡大図」 単元「対称な図形」

算数科における単元には以上のような特徴があることを踏まえ、単元の目標は、当該学年の「学年目標」と「内容のまとまり」で示された内容をもとに、必要な記述を抜き出して作成することになる。

(2) 単元の評価規準の作成の手順

単元及び単元の目標を作成したら、次は単元の評価規準を作成する。

算数科においても、学習指導要領の文言をもとに作成した「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を踏まえて作成する。

ただし算数科においては、「内容のまとめりごとの評価規準(例)」に示された文言が、単元の評価規準の文言としてそのまま用いることができない場合があることに注意が必要である。その理由は次の2点である。

1. 「内容のまとめり」をそのまま単元とすることができない場合があること

(1) で示したように、算数科においては、「内容のまとめり」をそのまま単元とすることができない場合があるからである。

2. 学習指導要領の算数科の内容として示された文言の書き方が揃っていないこと。

学習指導要領の算数科の内容として示された文言の書き方が揃っていないことから、単元の評価規準として、そのまま用いることができる場合と、そのままでは用いることができない場合があるからである。

○具体的に書かれているので、そのままの文言でほぼ用いることができる場合。

例 第1学年 A 数と計算 (1) 数の構成と表し方

(ア) ものとももの対応させることによって、ものの個数を比べること。

○抽象度を上げて書かれているので、そのままの文言では、評価規準として用いることができない場合。

このような場合は、評価規準をより具体的に示す必要がある

例 第6学年 B 図形 (1) 縮図や拡大図, 対称な図形

(ア) 縮図や拡大図について理解すること。

以上のことから、算数科においては、「内容のまとめりごとの評価規準」から「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」を作成し、「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」をもとに「単元の評価規準」を作成することとする。

「内容のまとめりごとの評価規準」

↓ 上記2を踏まえて、評価規準の文言を具体的な書き方で表現を揃える

「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」

↓ 単元に合わせて、内容のまとめりをそのまま用いたり、分割したり、

↓ 組み合わせたりして、単元の評価規準を作成する。

「単元の評価規準」

**(3) 「内容のまとめりごとの評価規準」をもとに，[観点ごとのポイント]を踏まえ，
「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」を作成する**

① 「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○ 「知識・技能」のポイント

- ・ 小学校学習指導要領の算数科の内容として示された「知識及び技能」の文言は，学年や領域ごとに書き方が揃っていない。
- ・ そこで，実際に単元において評価するに当たって，指導し評価する事項が明確になるように，具体的な書き方で表現を揃える必要がある。
- ・ その際，基本的に，当該「内容のまとめり」で育成を目指す資質・能力「知識及び技能」に該当する指導事項について，育成したい資質・能力「知識・技能」に照らして，「小学校学習指導要領解説算数編」などにおいて示された内容をもとに表現を揃え，その文末を「～している」「～できる」として，評価規準を作成する。

○ 「思考・判断・表現」のポイント

- ・ 小学校学習指導要領の算数科の内容として示された「思考力，判断力，表現力等」の文言は，学年や「内容のまとめり」の全体にかかわる内容となるように，抽象度を上げた書き方で示されている。また，「内容のまとめり」ごとに，主に主要な一つに絞って示されている。
- ・ そこで，実際に単元において評価するに当たって，指導し評価する事項が明確になるように，具体的な書き方で表現を揃える必要がある。また，時には「知識・技能」に対応した「思考・判断・表現」の文言も示す必要がある。
- ・ その際，基本的に，当該「内容のまとめり」で育成を目指す資質・能力「思考力，判断力，表現力等」に該当する指導事項について，育成したい資質・能力「思考力，判断力，表現力等」に照らして，「小学校学習指導要領解説算数編」などにおいて示された内容をもとに具体化し，その文末を「～している」として，評価規準を作成する。

○ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」の「内容のまとめりごとの評価規準」は，当該学年目標の(3)を踏まえて作成した「主体的に学習に取り組む態度」の「観点の趣旨」をもとに，指導事項を踏まえて，その文末を「～している」として，評価規準を作成している。そのため，学年を通して最終的に育成すべき資質・能力がどの「内容のまとめり」においても同じように書かれていて，抽象度を上げた書き方で示されている。また，算数科においては，「内容のまとめり」は，1，2時間で学習が終わるものもあれば，40時間を超えて学習するものもあるなど，指導する際の授業時数が大きく異なることがある。
- ・ そこで，実際に単元において評価するに当たって，指導し評価する事項が明確になるように，具体的な書き方で表現を揃えたり，時に追加したりする必要がある。
- ・ その際，「小学校学習指導要領解説算数編」などにおいて示された内容をもとに，具体的な学習活動や指導事項を踏まえて具体化し，その文末を「～している」として，評価規準を作成する。

(例) 第6学年 B 図形 (1) 縮図や拡大図, 対称な図形

(2) 学習指導要領の「2 内容」及び「内容のまとめりごとの評価規準(例)」

学習指導要領 2 内容	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
	(ア) 縮図や拡大図について理解すること。 (イ) 対称な図形について理解している。	(ア) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し, 構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに, その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしたりすること。	※内容には, 学びに向かう力, 人間性等について示されていないことから, 該当学年の目標(3)を参考にする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規準(例)	<ul style="list-style-type: none"> 縮図や拡大図について理解している。 対称な図形について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し, 構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに, その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に生かしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 縮図や拡大図及び対称な図形について, 数学的に表現 処理したことを振り返り, 多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり, 数学のよさに気付き, 学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。 <p>※必要に応じて学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。</p>

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
具 体 的 な 内 容 の ま と ま り ご と の 評 価 規 準 (例)	<ul style="list-style-type: none"> 縮図や拡大図について、その意味や、対応する角の大きさは全て等しく、対応する辺の長さの比はどこも一定であるなどの性質を理解している。 方眼紙のます目を用いたり、対応する角の大きさは全て等しく、対応する辺の長さの比はどこも一定であることを用いて、縮図や拡大図をかくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形間の関係を考察し、縮図や拡大図の性質を見いだしている。 縮図や拡大図の性質をもとにして、縮図や拡大図のかき方を考えている。 縮図や拡大図を活用して、実際には測定しにくい長さの求め方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 縮図や拡大図を簡潔・明瞭 <ul style="list-style-type: none"> 的確に描こうとしたり、実際には測定しにくい長さの求め方を工夫して考えたりしている。 実際には測定しにくい長さを縮図や拡大図を用いると解決できるというよさに気付いている。 縮図や拡大図を、身の回りから見付けようとしている。
	<ul style="list-style-type: none"> 線対称な図形について、1本の直線を折り目として折ったとき、ぴったり重なる図形であることや、対応する点を結ぶ線分は、対称の軸によって垂直に二等分されることなどを理解している。 点対称な図形について、対称の中心Oを中心にして180度回転したときに重なり合う図形であり、対応する点を結ぶ線分は全て、対称の中心を通り、その中心によって二等分されることなどを理解している。 線対称な図形や点対称な図形をかくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 対称という観点から既習の図形を捉え直し、図形を分類整理したり、分類した図形の特徴を見いだしたりしている。 図形を構成する要素の関係を考察し、線対称や点対称の図形の性質を見いだしている。 線対称や点対称の図形の性質をもとにして、線対称や点対称な図形のかき方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 対称な図形を、簡潔・明瞭 <ul style="list-style-type: none"> 的確に描こうとしている。 均整のとれた美しさ、安定性など対称な図形の美しさに気付いている。 対称な図形を、身の回りから見付けようとしている。

(4) 「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」から「単元の評価規準」を作成する例

ここでは、「内容のまとめり」がそのまま単元になる場合と、「内容のまとめり」が幾つかの単元に分かれる場合について、例を示す。

<記載例> 「内容のまとめり」がそのまま単元になる場合

(例) 第5学年 B 図形 (3) 平面図形の面積

第5学年「B図形」の「(3)平面図形の面積」では、そのまま一つの単元として学習することが多い。そこでその場合の評価規準の例を以下に示す。

内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形, 平行四辺形, ひし形, 台形の面積の計算による求め方について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形を構成する要素などに着目して, 基本図形の面積の求め方を見いだしているとともに, その表現を振り返り, 簡潔かつ的確な表現に高め, 公式として導いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形, 平行四辺形, ひし形, 台形の面積の求め方について, 数学的に表現・処理したことを振り返り, 多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり, 数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとしたりしている。

少し抽象的に示されている文言があるので、具体化して、具体的な内容のまとめりごとの評価規準を作成する。

具体的な内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な部分の長さを用いることで, 三角形, 平行四辺形, ひし形, 台形の面積は計算によって求めることができることを理解している。 ・ 三角形, 平行四辺形, ひし形, 台形の面積を公式を用いて求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形, 平行四辺形, ひし形, 台形の面積の求め方を, 求積可能な図形の面積の求め方を基に考えている。 ・ 見いだした求積方法や式表現を振り返り, 簡潔かつ的確な表現を見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気付き, 三角形, 平行四辺形, ひし形, 台形の面積を求めようとしている。 ・ 見いだした求積方法や式表現を振り返り, 簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。

具体的な内容のまとめりごとの評価規準は、そのまま単元の評価規準とすることができる。

単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な部分の長さを用いることで、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積は計算によって求めることができることを理解している。 ・ 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を公式を用いて求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の求め方を、求積可能な図形の面積の求め方を基に考えている。 ・ 見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現を見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めようとしている。 ・ 見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。

<記載例> 「内容のまとめり」が幾つかの単元に分かれる場合

(例) 第3学年 A 数と計算 (4) 除法

第3学年「A数と計算」の「(4)除法」では、「わり算」,「あまりのあるわり算」,「大きな数のわり算」と三つの単元に分けて学習することが多い。そこでその場合の評価規準の例を以下に示す。

内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。また、余りについて知っている。 ・ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ・ 除法と乗法や減法との関係について理解している。 ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ・ 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。 ・ 数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。

少し抽象的に示されている文言があるので、具体化して、具体的な内容のまとめりごとの評価規準を作成する。

具体的な内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ・ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ・ 除法と乗法や減法との関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 ・ 除法は乗法の逆算と捉え、除法の計算の仕方を考えている。 ・ 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。 ・ 「日常生活の問題 (単なる文章 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ・ 除法の場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。「わり算探し」など

<ul style="list-style-type: none"> ・ 除数と商が共に 1 位数である 除法の計算が確実にできる。 ・ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。 ・ 簡単な場合について、除数が 1 位数で商が 2 位数の除法の計算の仕方を知っている。 	<p>題ではない。情報過多の問題、算数以外の教科の問題)」を、除法を活用して解決している。(いろいろな単元が終わった後に日常生活の中から、もしくは他教科等で、除法を適切に用いて問題解決している)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単な場合について、除数が 1 位数で商が 2 位数の除法の計算の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が考えた除法の計算の仕方について、具体物や図と式とを関連付けて考えようとしている。
--	--	---

具体的な内容のまとまりごとの評価規準に示されている内容をもとに、三つの単元「わり算」、「あまりのあるわり算」、「大きな数のわり算」の内容に合わせて、単元の評価規準を作成する。

単元（わり算）の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ・ 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ・ 除法と乗法や減法との関係について理解している。 ・ 除数と商が共に 1 位数である除法の計算が確実にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 ・ 除法は乗法の逆算と捉え、除法の計算の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ・ 除法の場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。（「わり算探し」など）

単元（あまりのあるわり算）の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ・ 除数と商が共に 1 位数である除法の計算が確実にできる。 ・ 割り切れない場合に余りを出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 ・ 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ・ 除法の場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。（「わり算探し」など）

すことや、余りは除数より小さいことを知っている。		
--------------------------	--	--

単元（大きな数のわり算）の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 包含除や等分除など，除法の意味について理解し，それが用いられる場合について知っている。 ・ 簡単な場合について，除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を，具体物や図などを用いて考えている。 ・ 簡単な場合について，除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が考えた除法の計算の仕方について，具体物や図と式とを関連付け，よりよい表現にしていこうとしている。

【参考】「具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）」一覧

I 第1学年

A 数と計算

(1) 「数の構成と表し方」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べることができる。 ・個数や順番を正しく数えたり表したりすることができる。 ・数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすることができる。 ・一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみることができる。 ・2位数の表し方について理解している。 ・簡単な場合について、3位数の表し方を理解している。 ・数を、十を単位としてみることができる。 ・具体物をまとめて数えたり等分したりして整理し、表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2ずつや5ずつ、10ずつなどの数のまとめりを用いて、数の数え方を考えている。 ・「10とあと幾つ」などの数の見方を用いて、数の比べ方を考えている。 ・数の大きさの比べ方や数え方を日常生活に生かす具体的な場面を見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるものの個数や順番に親しみ、大きさを比べたり数えたりしようとしている。 ・ものの個数や順番を数を用いて表すことで、日々の生活が効率的になったり豊かになったりするというよさに気付いている。

(2) 「加法及び減法」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。 ・合併や増加、求残や求差など、加法及び減法が用いられる場 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある場面が加法及び減法が用いられることができるかどうかを、数量の関係に着目して、具体物や図などを用いて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加法及び減法が用いられる場面の数量の関係を具体物や図などを用いて考えようとしている。 ・加法及び減法の場面を身の回

<p>面を式に表したり，式を読み取ったりすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできる。 ・「10が幾つ」や「10とあと幾つ」という数の見方などを用いると，簡単な場合について，2位数などの加法及び減法ができることを知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の問題を加法及び減法を活用して解決している。 ・和が10より大きい数になる加法及びその逆の減法について，「10とあと幾つ」という数の見方を用いて，計算の仕方を考えている。 	<p>りから見付け，加法及び減法を用いようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをもとに，和が10より大きい数になる加法及びその逆の減法の計算の仕方を考えようとしている。
---	---	--

B 図形

(1)「身の回りにあるものの形」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるものの形について，「さんかく」，「しかく」，「まる」などの形を見付けることができる。また，平ら，丸い，かどがあるなどの形の特徴やころがる，重ねられるなどの形の機能的な特徴を知っている。 ・積み木や，箱，色板などを用いて，身の回りにある具体物の形を作ったり，作った形から逆に具体物を想像したりすることができる。 ・身の回りにあるものの形について，観察したり，構成したり，分解したりする活動を通して図形についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。 ・前後，左右，上下など方向や位置についての言葉を用いて，ものの位置を表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある具体物の中から，色や大きさ，位置や材質などを捨象し，形を認め，形の特徴を捉えている。 ・ずらす，回す，裏返すなどの具体的な操作を通して，形のもつ性質や特徴を生かした形の構成について考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにあるものの形に親しみ，観察したり，構成したり，分解したりしようとしている。 ・箱の形や筒の形，ボールの形などを身の回りから見付けようとしている。 ・「さんかく」，「しかく」，「まる」などの形を身の回りから見付けようとしている。

C 測定

(1) 「身の回りにあるものの大きさ」の具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 長さ、広さ、かさを、具体的な操作によって直接比べたり、他のものを用いて比べたりすることができる。 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べることができる。 <p>(・身の回りにあるものの長さ、広さ、かさの大小をとらえるなど、量(長さ、広さ、かさ)の大きさについて感覚を豊かにしている。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りのものの特徴の中で、比べたい量に着目し、量の大きさの比べ方を考え、比べ方を見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにあるものの長さ、広さ、かさに親しみ、大きさを比較しようとしている。 媒介物を用いて大きさを比べることで、直接には比べられないものが比べられるようになるというよさに気付いている。 身の回りにあるものの大きさを単位としてその幾つ分かで数値化することで、大きさの違いを明確にすることができるよさに気付いている。

(2) 「時刻」の具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 時計の長針、短針を見て、時刻を読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時刻の読み方を用いて、時刻と日常生活を関連付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 時刻を用いることで日常生活の行動に生かせるというよさに気づき、日常生活の中で時刻を用いようとしている。

D データの活用

(1) 「数量の整理」の具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ものの個数について、簡単な絵や図などに表したり、それらを読み取ったりすることができる。 対象を絵などに置き換える際には、それらの大きさをそろえることや、並べる際に均等に配置することが必要であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの事象について、絵や図などを用いて整理して表すことで、どの項目のデータの個数がどの程度多いかという事象の特徴を捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ものの個数を絵や図などに整理して表すことを、楽しんで学んでいる。

Ⅱ 第2学年

A 数と計算

(1) 「数の構成と表し方」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ものの個数を、2ずつ、5ずつ、10ずつまとめて数えたり、分類して数えたりすることができる。 ・4位数までの数について、十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解している。 ・4位数までの数について、書いたり読んだりすることができる。 ・二つの数の大小関係を「>」、「<」を用いて表すことができる。 ・4位数までの数について、数を十や百を単位として捉えることができる。 ・一つの数をほかの数の積と捉えることができる。 ・身の回りに、整数が分類整理に使われていることを理解している。 ・$\frac{1}{2}$、$\frac{1}{3}$ など簡単な分数について知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの個数を実際に数え、図に表すなどして、十進位取り記数法の仕組みによる数の表し方を考えている。 ・4位数までの数について、数のまとめりに着目し、数の比べ方を考えている。 ・数の相対的な大きさをとらえたり、一つの数をほかの数の積としてみたりするなど、数を多面的にとらえている。 ・12個を3等分した場面などを「12個の$\frac{1}{3}$は4個」などと表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのものの個数を10や100のまとめりにして数えたり、数えたものを数字を使って書いたり読んだりしようとしている。 ・4位数までの数について、簡潔・明瞭・的確に数えようとしている。 ・身の回りから、整数が使われている場面を見付けようとしている。

(2) 「加法及び減法」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・2位数の加法及びその逆の減法の計算が1位数などについての基本的な計算を基にすることができることを理解している。 ・2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方について理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・2位数の加法及びその逆の減法の計算の仕方を考えている。 ・2位数の加法及びその逆の減法の計算の計算の仕方と筆算の仕方を関連づけて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2位数の加法及びその逆の減法の計算の仕方を考えようとしている。 ・2位数の加法及びその逆の減法の計算を生活や学習に活用しようとしている。

<p>している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 位数の加法及びその逆の減法の計算が確実にできる。 ・ 簡単な場合について， 3 位数などの加法及び減法の計算の仕方を知っている。 ・ 加法及び減法に関して成り立つ性質について理解している。 ・ 加法と減法は互いに逆の関係になっているなど， 加法と減法の相互関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単な場合について， 3 位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えている。 ・ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ， それを用いて， 計算の仕方を考えたり， 計算の確かめをしたりしている。 ・ 加法と減法の相互関係について， 図を基に考え， 式で表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単な場合について， 3 位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えようとしている。 ・ 加法及び減法に関して成り立つ性質を用いて， 計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることを通して， そのよさに気付いている。 ・ 加法と減法の相互関係を考察するのに用いる図のよさに気付いている。
---	--	---

(3) 「乗法」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗法は， 一つ分の大きさが決まっているときに， その幾つ分かに当たる大きさを求める場合に用いられるなど， 乗法の意味について理解し， それを用いられる場合について知っている。 ・ 乗法は累加で答えを求めることができることを理解している。 ・ 乗法が用いられる場面を式に表したり， 式を読み取ったりすることができる。 ・ 交換法則など乗法に関して成り立つ簡単な性質を図を用いて理解している。 ・ 乗法九九について知り， 1 位数と 1 位数との乗法の計算が確実にできる。 ・ 簡単な場合について， 2 位数と 1 位数との乗法の計算の仕 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乗法が用いられる場面を， 具体物や図などを用いて考え， 式に表したり， 乗法の式を， 具体的な場面に結び付けてとらえたりしている。 ・ 計算の仕方を振り返り， 乗法に関して成り立つ簡単な性質を見いだしたり， それを基に乗法を構成したりしている。 ・ 日常生活の問題や算数の問題， 情報過多の問題， 算数以外の教科等の問題などを， 乗法を活用して解決している。 ・ 既習の乗法やその構成の方法を基に， 簡単な場合について， 2 位数と 1 位数との乗法の計算の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 累加の簡潔な表現としての乗法のよさに気づき， ものの総数を乗法を用いて表そうとしている。 ・ 一つ分の大きさが決まっているときに， その幾つ分かに当たる大きさを求める場合に， 乗法を用いるとその総数を簡潔に求めることができるというよさに気づき， 乗法の場面を身の回りから見付け， 乗法を用いようとしている。 ・ 累加や乗法に関して成り立つ簡単な性質を用いるなどして， 乗法九九を構成しようとしている。 ・ 簡単な場合について， 2 位数と 1 位数との乗法の計算の仕方を発展的に考えようとしている。

方を知っている。		
----------	--	--

B 図形

(1) 「図形」の具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形が3本の直線で囲まれた図形であることなど三角形について知っている。また、四角形について知っている。 ・ 直角や正方形，長方形，直角三角形について知っている。 ・ 紙を折って，直角や正方形，長方形や直角三角形を作ることができる。 ・ 格子状に並んだ点などを用いて，正方形，長方形，直角三角形を作図することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直線で囲まれた図形について，他の図形との比較によって分類し，三角形や四角形などの特徴を見いだしている。 ・ 四角形について，角や辺に着目し分類し，正方形や長方形などの特徴を見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの正方形，長方形，直角三角形が，日常生活でどのように活用されているのか調べようとしている。 ・ 正方形，長方形，直角三角形で平面を敷き詰める活動を楽しみ，できる模様的美しさや平面の広がり気付いている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 箱の形について，3種類の長方形が2組で構成されていることなどを理解している。 ・ 正方形や長方形を組み合わせた，ひごなどを用いたりして，箱の形を構成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箱の形について，その違いに気付き分類し，分類した箱の形の特徴を見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの箱の形をしたものが，日常生活でどのように活用されているのか調べようとしている。 ・ 正方形や長方形を組み合わせたなどして，箱の形を構成しようとしている。

C 測定

(1) 「量の単位と測定」の具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 長さの単位（ミリメートル（mm），センチメートル（cm），メートル（m））及びかさの単位（ミリリットル（mL），デシリットル（dL），リットル（L））と，量の大きさを単位を用いて数値化するという測定の意味について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 量の大きさを表現したり，比べたりする際，測定するものや目的に応じて，どの単位を用いることが適切か考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長さやかさを数値に表して比べたことを振り返り，普遍単位の必要性に気付いている。 ・ 身の回りのものの長さやかさを測定しようとしている。

<ul style="list-style-type: none"> ・測定するものに応じて、適切な長さやかさの単位を選び、身の回りの具体物の長さやかさを測定することができる。 ・1 mがどのくらいの長さであるかや、1 Lがどのくらいのかさであるかを、身の回りにあるものの大きさを基にしてとらえるなど、長さやかさの大きさについての豊かな感覚をもっている。 		
---	--	--

(2) 「時刻と時間」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・時間の単位（日，時，分）について知り，時刻や時間を表すことができる。 ・時間の単位（日，時，分）の関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における時刻や時間の求め方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で必要な時刻や時間を求めようとしている。

D データの活用

(1) 「データの活用」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある数量を分類整理し簡単な表やグラフを用いて表すことができる。 ・身の回りにある数量を分類整理して表した簡単な表やグラフを読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの事象について，簡単な表やグラフに表すことで，差の大小や全体の傾向について考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データの整理に進んで関わり，数量の大きさの違いを一目で捉えることができるなどの，グラフのよさに気付いている。

Ⅲ 第3学年

A 数と計算

(1) 「整数の表し方」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・万や億の単位について知っている。 ・10倍, 100倍, 1000倍, $\frac{1}{10}$の大きさの数及びそれらの表し方について知っている。 ・十, 百, 千, 万を単位とする数の相対的な大きさの見方を用いて数を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数のまとめりに着目し, 万を超える数の大きさの比べ方や表し方を, 図や数直線を用いるなどして考えている。 ・数を比べる際には, 十進位取り記数法をもとに大きい位から見れば大小を比べられることに気付いている。 ・十, 百, 千, 万を単位とする数の相対的な見方を活用して, 計算の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・万の単位の数が使われていることを身の回りから見付け, その大きさをつかんだり読んだりしようとしている。

(2) 「加法及び減法」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・3位数や4位数の加法及び減法の計算が2位数などについての基本的な計算を基にすることができることを理解している。 ・3位数や4位数の加法及び減法の筆算の仕方について理解している。 ・3位数や4位数の加法及び減法の計算が確実にできる。 ・2位数どうしの加法及びその逆の減法の答えを暗算で求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方について, 十進位取り記数法による数の表し方や十を単位としてみる数の見方を基に考えている。 ・加法及び減法に関して成り立つ性質を見いだしている。 ・加法及び減法に関して成り立つ性質を活用して, 計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをもとに, 3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方を考えようとしている。

(3) 「乗法」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算が, 乗法九九などの基本的な計算を基にすることができることを理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・被乗数を多面的に見たり, 図と式とを関連付けたりしながら, 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗法の計算の仕方を振り返り, 被乗数をどのようにみると既習の計算が使えるのかについて気づき, 次の学習に活

<p>している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の筆算の仕方について理解している。 ・ 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の筆算が確実にでき、それを適切に用いることができる。 ・ 乗法の交換法則，結合法則，分配法則など，乗法に関して成り立つ性質について理解している。 	<p>の仕方を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計算の仕方を振り返ったり，数量と図と関連付けたりしながら，乗法の交換法則，結合法則，分配法則など，計算に関して成り立つ性質を見いだしている。 ・ 計算に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫している。 ・ 計算に関して成り立つ性質を活用して，計算の確かめをしている。 	<p>用しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計算に関して成り立つ性質を使うと計算が工夫できるというよさに気づき，計算するときに活用しようとしている。 ・ 筆算をしたり見積りをしたりする際に，暗算が生かせるというよさに気づき，実際にしようとしている。
---	---	---

(4) 「除法」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 包含除や等分除など，除法の意味について理解し，それが用いられる場合について知っている。 ・ 除法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすることができる。 ・ 除法と乗法や減法との関係について理解している。 ・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ・ 割り切れない場合に余りを出すことや，余りは除数より小さいことを知っている。 ・ 簡単な場合について，除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を，具体物や図などを用いて考えている。 ・ 除法は乗法の逆算と捉え，除法の計算の仕方を考えている。 ・ 余りのある除法の余りについて，日常生活の場面に応じて考えている。 ・ 「日常生活の問題（単なる文章題ではない。情報過多の問題，算数以外の教科の問題）」を，除法を活用して解決している。（いろいろな単元が終わった後に日常生活の中から，もしくは他教科等で，除法を適切に用いて問題解決している） ・ 簡単な場合について，除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除法が用いられる場面の数量の関係を，具体物や図などを用いて考えようとしている。 ・ 除法の場面を身の回りから見付け，除法を用いようとしている。（「わり算探し」など） ・ 自分が考えた除法の計算の仕方について，具体物や図と式とを関連付けて考えようとしている。

(5) 「小数とその表し方」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

<ul style="list-style-type: none"> ・端数部分の大きさを表すのに小数を用いることを知っている。 ・小数の表し方及び$\frac{1}{10}$の位について知っている。 ・量を測定する単位の構成が、十進構造になっていることについて理解している。 ・$\frac{1}{10}$の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算ができることを知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小数の大きさについて、図や数直線を用いて表したり、0.1の幾つ分かを考えたりして、大きさを比べたり、小数の加法及び減法の計算の仕方を考えたりしている。 ・小数やその計算が日常生活にも使えることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小数でも数の大きさを比べたり、計算したりできるかどうか考えたことを振り返り、0.1の幾つ分と見ることで整数と同じ見方ができることに気付き、次の学習に活用しようとしている。 ・端数部分の大きさを表すことができるというよさに気付き、身の回りから、小数が用いられる場面を見付けようとしている。
--	--	---

(6) 「分数とその表し方」の具体的な内容のまとめりとごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いることを知っている。 ・分数が単位分数の幾つ分かで表すことができることを知っている。 ・数直線を用いて、0.1と$\frac{1}{10}$の大きさが等しいことを理解している。 ・同分母の分数の加法及び減法の意味について理解している。 ・真分数どうしの加法及び減法、和が1までの加法とその逆の減法の計算の仕方を知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同分母どうしの場合は、単位分数の個数を基に、分子の大きさを比べることができることに気付き、分数の大きさを比べている。 ・単位分数の幾つ分と見ることで、整数と同じように処理できることに気付き、同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考えている。 ・同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方について、日常生活における場面を基に考えたり、図に表して考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・端数部分の大きさを分数を用いて表そうとしている。 ・数のまとめりに着目し、分数でも数の大きさを比べたり計算したりできるかどうかを考えようとしている。 ・身の回りから、分数が用いられる場面を見付けようとしている。 ・単位として都合のよい大きさを選ぶことで、小数では表せない数も表すことができるよさに気付いている。

(7) 「数量の関係を表す式」の具体的な内容のまとめりとごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・未知の数量を□などを用いて表すことにより、数量の関係を式で表せることを理解して 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量の関係に着目し、数量の関係を図や□などを用いた式に、簡潔に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量の関係を図に表したことを振り返り、□などを用いた式に表すよさに気付き、□な

<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 未知の数量を□などを用いて表し，その関係を式に表すことができる。 未知の数量を□などを用いて表した式について，□に数を当てはめて調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> □などを用いて表した式そのものが，一つの数量を表していることに気づき，式と図を関連付けて，式が表している場面の意味を読み取っている。 	<p>どを用いた式を問題解決に活用しようとしている。</p>
--	--	--------------------------------

(8) 「そろばん」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> そろばんによる数の表し方について知っている。 そろばんによる簡単な1位数や2位数の加法及び減法の計算の仕方について知り，計算している。 	<ul style="list-style-type: none"> そろばんによる大きな数や小数の加法及び減法の計算の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> そろばんによる数の表し方を振り返り，十進位取り記数法の仕組みでそろばんが作られているよさに気づき，そろばんで整数や小数を表したり，計算したりしようとしている。

B 図形

(1) 「図形」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形，正三角形，直角二等辺三角形の意味や性質を理解している。 二等辺三角形や正三角形を，定規やコンパスを用いて作図することができる。 二等辺三角形を作図する中で，正三角形が作図できることに気付いている。 一つの頂点から出る2本の辺が作る形を角ということを知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形，正三角形などの三角形を観察し，違いに気付いて分類し，それらの特徴を見いだしている。 二等辺三角形や正三角形を紙で作ったり，作図したりすることを通して，二等辺三角形や正三角形の性質を見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形や正三角形の観察や構成を通して，それらの特徴や性質を見いだそうとしている。 二等辺三角形の作図の仕方を振り返り，正三角形の作図に活用しようとしている。 二等辺三角形や正三角形が敷き詰められることなど，二等辺三角形や正三角形のよさに気づき，身の回りの二等辺三角形や正三角形が，日常生活でどのように活用されているのか調べようとしている。
<ul style="list-style-type: none"> 円や球について，中心，半径，直径の意味やそれぞれのもつ 	<ul style="list-style-type: none"> 円の半径や直径を観察したり作図したりすることを通して， 	<ul style="list-style-type: none"> 円と球に関心をもち，特徴を調べようとしている。

<p>性質を知っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> コンパスを用いて、円を作図することなどができる。 	<p>円の半径や直径は無数にあるなどの性質を見いだしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 球の観察などを通して、球を平面で切ると切り口は円になり、球をちょうど半分にした場合の切り口が最大になるなどの性質を見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの円や球が、日常生活でどのように活用されているのか調べようとしている。
---	--	---

C 測定

(1) 「量の単位と測定」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 長さの単位（km）及び重さの単位（g, kg, t）について知り、長さや重さも単位の幾つかで測定できることを理解している。 ものの長さや重さについて、適切な単位で表すことができる。 長さや重さについて、およその見当を付け計器を適切に選んで測定することができる。 メートル法の単位の仕組みについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 長さ、体積、重さについて、1 kmは1000m, 1 Lは1000mL, 1 kgは1000 gなどの関係を中心に、既習の単位を整理し、接頭語が表す倍の関係などに気付いている。 メートル法の単位の仕組みを活用し、新しい単位に出会ったときも類推して量の大きさを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 長さや重さについて、およその見当を付け、効率的に測定しようとしている。 長さや重さなどの単位を用いて表したことを振り返り、「m」「c」「k」などの接頭語が共通に用いられているというメートル法の単位の仕組みのよさに気づき、身の回りで使われている新しい量の単位に出会ったときも類推してその単位の大きさや関係について考えようとしている。

(2) 「時刻と時間」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 秒について知っている。 日常生活に必要な時刻や時間を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の場面について、時計の模型や数直線を用いて時刻や時間の求め方について考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1秒や10秒、60秒の感覚を、手をたたくなどの体験を通して捉えようとしている。 必要になる時刻や時間を測定して表したり、必要な時刻や時間の求め方について考えたりしようとしている。 日常生活で時間の単位（秒）が用いられている場面を調べようとしている。

D データの活用

(1) 「データの分析」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日時の観点や場所の観点などからデータを分類整理し，簡単な二次元の表に表したり読んだりすることができる。 ・ 棒グラフで表すと，数量の大小や差などがとらえやすくなることなど，棒グラフの特徴やその使い方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ データをどのように分類整理すればよいかについて，解決したい問題に応じて観点を定めている。 ・ 身の回りの事象について，表や棒グラフに表し，特徴や傾向を捉え考えたことを表現したり，複数のグラフを比較して相違点を考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んで分類整理し，それを表や棒グラフに表して読み取るなどの統計的な問題解決のよさに気付き，生活や学習に活用しようとしている。

I 第4学年

A 数と計算

(1) 「整数の表し方」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 億や兆の単位について知るとともに、4桁ごとに新しい単位が用いられていることを理解している。 億や兆を用いる大きな数を、十進位取り記数法によって表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4桁で区切るなど単位のまとめりを考え、9桁を超えるような数を読んだり、数の大きさを比べたりしている。 これまでに学んだ一、十、百、千の繰り返しと統合的に捉え、さらに大きな数についても類推して考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 十進位取り記数法によって、10個の数字でどのような大きな数でも表すことができるよさに気づき、生活や学習で見られる大きな数を進んで理解しようとしている。

(2) 「概数」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 概数が用いられる場合を知り、概数の必要性を理解している。 以上、以下、未満の用語とその意味について理解している。 四捨五入などについて知り、四捨五入などをして数を概数にすることができる。 目的に応じて、和、差、積、商を概数で見積もることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面を捉えて判断し、目的に合った概数の処理の仕方を考えている。 日常生活で用いられている数が、概数で表された数かどうかを判断し、考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 概数を用いると物事の判断や処理が容易になるなどのよさに気づき、目的に応じて自ら概数で事象を把握しようとしている。 生活や学習の場面で、目的に応じて計算の結果を見積もろうとしている。

(3) 「整数の除法」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解している。 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の 	<ul style="list-style-type: none"> 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の計算の仕方を考えている。 除法に関して成り立つ性質を見だし、その性質を活用して計算の仕方を考えたり計算 	<ul style="list-style-type: none"> (何十)÷(何十)の計算を十を単位として考えれば一位数の計算として求められるというよさに気付いている。 除法に関して成り立つ性質を活用して、工夫して計算しようとしている。

<p>除法の筆算の仕方について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の除法の計算が確実にできる。 ・ 除法を用いる場合を知り、適切に用いることができる。 ・ 簡単な除法について、暗算で答えを求めることができる。 ・ 用語「商」を知り、整数の除法において、被除数、除数、商及び余りの間の関係について理解している。 ・ 除法に関して成り立つ性質について理解している。 	<p>の確かめをしたりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暗算を、筆算や見積りに生かし、主体的に計算の仕方を考えようとしている。
---	----------------------	---

(4)「小数とその計算」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ ある量の何倍かを表すのに小数を用いることができることを知り、拡張した倍の意味を理解している。 ・ $\frac{1}{10}$の位, $\frac{1}{100}$の位と範囲が拡張された小数を知り、小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知っている。 ・ 1.2を0.1が12個集まった数とみるなど、数の相対的な大きさから、小数をとらえることができる。 ・ 小数の加法及び減法についての理解を深めている。 ・ $\frac{1}{100}$の位までの小数の加法及び減法の計算ができる。 ・ 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の意味について理解している。 ・ 乗数や除数が整数である場合 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 端数部分の大きさを小数で表すとき、0.1の単位をつくったときの考えを基に、0.01の単位をつくることを考えている。 ・ $\frac{1}{100}$の位までの小数の加法及び減法の計算の仕方を、整数の計算の仕方などに関連付けて考えている。 ・ 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算の仕方を、整数の計算の仕方と関連付けて考えている。 ・ 小数やその計算が日常生活にも使えることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小数の桁の範囲が拡張されても同じ十進位取り記数法の仕組みで表されることを学んだことから、さらに小さい小数の位についても考えようとしている。 ・ 小数も、整数と同じように十進位取り記数法の仕組みで表されているから同じように計算できるというよさに気付く、小数の計算の仕方を考えようとしている。

の小数の乗法及び除法の計算ができる。 ・整数を整数で割って商が小数になる除法について、商の意味を理解している。	
--	--

(5) 「分数とその加法及び減法」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・数直線に示された分数を観察し、表し方が違っていても大きさの等しい分数があることに気付き、見つけることができる。 ・数直線や図を用いて、分数の大きさを表すことができる。 ・真分数、仮分数、帯分数の意味について理解している。 ・1より大きい分数を仮分数でも帯分数でも表すことができる。 ・同分母の分数の加法及び減法の計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分数の大きさを、数直線や図などで表したり、分数が表された数直線や図を読み取ったりして、分数の大きさについて判断したり表現したりしている。 ・同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を、日常生活における場面や単位分数の個数に着目して考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1より小さい分数の意味をもとにして、1より大きい分数の意味や、同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方について考えようとしている。

(6) 「数量の関係を表す式」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・一つの数量を表すのに（ ）を用いることや乗法、除法を用いて表された式が一つの数量を表すことなどを理解している。 ・乗法、除法を加法、減法より先に計算することや（ ）の中を先に計算することなどのきまりがあることを理解している。 ・公式が一般的な数量の関係を表していることなど、公式についての考え方を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量と数量の間を考える際に、幾つもの数量の組を使って、共通するきまりや関係を考え、見いだしている。 ・式の意味を読み、具体的な場面や思考の筋道を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式や公式のよさに気付き、数量の関係を簡潔に表現したり、式の意味を読み取ろうとしている。

<ul style="list-style-type: none"> ・数量の関係を式で簡潔に表したり，式を読み取ったりすることができる。 ・四則の混合した式や（ ）を用いた式について正しく計算することができる。 ・公式を用いて数量の関係を表したり，公式の言葉で表されているものにいろいろな数を当てはめることができる。 ・数量を□，△などを用いて表し，その関係を式にしたり，□，△などに数を当てはめて調べたりすることができる。 ・□，△などを用いた式において，□，△などは変数を表すことを理解している。 ・□，△を用いた式では，□，△の一方の大きさが決まれば，それに伴って，他方の大きさが決まることを理解している。 		
---	--	--

(7) 「計算に関して成り立つ性質」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・□，△などの記号を用いて，交換法則，結合法則，分配法則を一般的な式に表すことができる。 ・計算の範囲を整数から小数に広げても，交換法則，結合法則，分配法則が成り立つことを理解している。 ・□，△などを用いた式では，「同じ記号には同じ数が入る」ことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交換法則，結合法則，分配法則を用いて計算を簡単に行うことを考えている。 ・交換法則，結合法則，分配法則が整数だけでなく小数について成り立つことを，図などを用いて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整数や小数の計算に，計算に関して成り立つ性質を用いると計算を簡単にすることができる場合があることなど，計算に関して成り立つ性質のよさに気付き，工夫して計算しようとしている。

(8) 「そろばんを用いた数の表し方と計算」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・そろばんを用いて、簡単な億や兆の単位までの整数や$\frac{1}{100}$の位までの小数の加法及び減法の計算をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そろばんを用いた大きな数や小数の計算の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そろばんによる簡単な計算の仕方を振り返り、そろばんの仕組みのよさに気づき、大きな数や小数の計算の仕方を考えようとしている。

B 図形

(1) 「平面図形」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・直線の平行や垂直の関係について理解し、平行な二直線や垂直な二直線をかくことができる。 ・平行四辺形、ひし形、台形の意味や性質（、対角線）について知り、かくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察し図形（平行四辺形、ひし形、台形）の性質を見いだしている。 ・四角形（平行四辺形、ひし形、台形）について、かき方を考えている。 ・見いだした図形の性質を基に、既習の図形（正方形、長方形）を捉え直している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りから平行や垂直になっている二直線や平行四辺形、ひし形、台形を見付け、どのような性質を活用しているかを考え、そのよさに気付いている。 ・平行四辺形、ひし形、台形で平面を敷き詰める活動を通して、これらの図形が平面を敷き詰めることができるというよさやできた模様的美しさに気付いている。

(2) 「立体図形」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・立方体や直方体について知り、立方体や直方体の構成要素や、それらの位置関係について理解している。 ・立方体や直方体の見取図をかくいたり、それらの見取図を見て、構成要素の垂直や平行の関係を読み取ったりすることができる。 ・立方体や直方体の展開図をかき、構成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を構成する要素及びそれらの位置関係に着目して立体図形を仲間分けし、立方体や直方体の性質を考察している。 ・立方体や直方体を展開図として平面上に表現する仕方を考察し、見いだした立体図形の性質や構成要素の位置関係などを根拠にして、展開図のそれぞれの面の位置や大きさについて表現している。 ・日常の事象を図形の性質を用いて捉え直している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で見いだされる立方体や直方体について、どのような性質を活用しているかを考え、そのよさに気付いている。

(3) 「ものの位置」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 平面の上や空間の中にあるものの位置を表す際、平面上では二つの要素が必要で、空間の中では三つの要素が必要であることを理解している。 平面の上でのものの位置を二つの要素で表したり、空間の中でのものの位置を三つの要素で表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平面の上や空間の中でのものの位置を表すには、基準を決めることや方向を表す言葉や記号が必要であることを気付いている。 直線や平面の上でのものの位置の表し方から類推して、空間の中でのものの位置の表し方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 数を使うとものの位置が簡潔に表されるよさに気付き、ホールや乗り物の座席など生活で使われている場面を調べるなど、生活や学習に生かそうとしている。

(4) 「平面図形の面積」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 面積の単位（平方センチメートル（cm^2）、平方メートル（m^2）、平方キロメートル（km^2）について知り、測定の意味について理解している。 必要な部分の長さを用いることで、正方形や長方形の面積は計算によって求めることができることを理解している。 正方形や長方形の面積を公式を用いて求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 面積の単位や図形を構成する要素に着目し、正方形及び長方形の面積の計算による求め方を考えている。 長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を、図形の構成の仕方に着目して考えている。 面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 面積の大きさを数値化して表すことのよさに気付き、面積を調べる際に活用しようとしている。 長方形を組み合わせた図形の面積の求め方について、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えている。

(5) 「角の大きさ」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 角の大きさを回転の大きさとして捉え、その単位（度（$^\circ$））について知り、測定の意味について理解している。 角が90°より大きいか小さいかを判断するなどして、分度器を用いて角の大きさを測定 	<ul style="list-style-type: none"> 角の大きさを加法的に見たり乗法的に見たりするなど、柔軟に考えている。 角の大きさを根拠にして図形を判断したり、それを表現したりするなどして図形を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 角の大きさの学習を生かし、身の回りにある図形を角の大きさに着目して捉えようとしている。

したり，必要な大きさの角を作ったりすることができる。	
----------------------------	--

C 変化と関係

(1) 「伴って変わる二つの数量」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りから伴って変わる二つの数量を見付け数量の関係の変化の特徴を見いだしている。 ・折れ線グラフに表された伴って変わる二つの数量の変化の特徴について読み取ることができる。 ・伴って変わる二つの数量の関係を明確にするために，資料を表に表したりグラフを用いて表したりすることができる。 ・折れ線グラフを用いると，伴って変わる二つの数量の変化の様子をわかりやすく表すことができることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの数量から，それに伴って変わると考えられる別の数量を見付け，一方の数量を決めれば他の数量が決まるかどうか，あるいは一方の数量は他の数量の変化に伴って変化するか，というような関係について考えている。 ・伴って変わる二つの数量の関係を表に整理して，変化や対応の特徴を考察している。 ・対応の特徴を式に表して表現したり，変化の様子を折れ線グラフに表して考察したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の考えや統計的な見方のよさに気付き，進んで生活や学習に活用しようとしている。 ・表やグラフ，式に表された変化や対応の特徴を振り返り，それぞれの表し方のよさに気付き，さらに考察を進めようとしている。

(2) 「二つの数量の関係」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な場合について，ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に，割合がいつでも変わらない場合は，割合を用いて比べることを知り，割合を用いて比べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の事象における数量の关系到着目し，図や式などを用いて，ある二つの数量の关系到別の二つの数量の关系到の比べ方を考察し，場面にあった比べ方を判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な場合について，ある二つの数量の关系到別の二つの数量の关系到の比べ方を，場面に即して判断したり，生活や学習に活用したりしようとしている。

D データの活用

(1) 「データの収集とその分析」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

<ul style="list-style-type: none"> ・資料を分析するとき，二つの観点から分類整理する方法を知っている。 ・資料を，二つの観点から落ちや重なりがないように分類整理して表に表すことができる。 ・時系列データについて折れ線グラフに表して時間的変化を読み取ることができる。 ・紙面の大きさや目的に応じて一目盛りの大きさをきめることができる。 ・複数系列のグラフや組み合わせたグラフを読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて，観点を考えて必要なデータを集めている。 ・問題を解決するために適切な表やグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え問題に対する結論を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データを収集したり分析したりした過程を振り返り，よりよい表現や結論の出し方を考えている。 ・統計的な問題解決のよさに気付き，生活や学習に活用しようとしている。
--	--	---

V 第5学年

A 数と計算

(1) 「整数の性質及び整数の構成」の具体的な内容のまとめごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 偶数と奇数について知っている。 整数は、観点を決めると偶数、奇数に類別されることを知っている。 約数、公約数、最大公約数、倍数、公倍数、最小公倍数について知り、それらを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別する仕方を考えている。 乗法及び除法に着目し、倍数や約数などの求め方を考えている。 数の構成について、ある数の約数や倍数の全体をそれぞれ一つの集合としてとらえ、考察している。 偶数、奇数や倍数、約数などを、日常生活や算数の学習の問題解決に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 偶数、奇数や倍数、約数などの求め方を考えたことを振り返り、それらのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。

(2) 「整数及び小数の表し方」の具体的な内容のまとめごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 整数や小数について、ある数の10倍、100倍、1000倍、$\frac{1}{10}$、$\frac{1}{100}$などの大きさの数を、小数点の位置を移してつくることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 整数や小数の表し方の仕組みに着目し、数の相対的な大きさを考察し、十進位取り記数法としてまとめ、計算などに有効に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 整数と小数が同じ十進位取り記数法で表されていることのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。

(3) 「小数の乗法及び除法」の具体的な内容のまとめごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について、乗数や除数が整数である場合の計算の考え方を基にして、理解している。 $\frac{1}{100}$の位までの小数の乗法及び除法の計算ができる。 小数の除法の計算における余りの大きさについて理解して 	<ul style="list-style-type: none"> 乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて、小数を用いた倍の意味などをもとに、乗法及び除法の意味を捉え直している。 小数の乗法及び除法について、小数の意味や表現をもとにしたり、乗法及び除法に関して成り立つ性質を用いたりして、 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことをもとに、小数の乗法及び除法の計算の仕方を考えたり、計算の仕方を振り返り多面的に考え検討したりしようとしている。 小数の乗法及び除法の計算の仕方を振り返り、筆算での処理に生かそうとしている。 <p>(・小数の乗法及び除法の計算</p>

<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小数の乗法及び除法について、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。 	<p>計算の仕方を多面的に考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小数の乗法及び除法の計算を用いて、日常生活の問題を解決している。 	<p>に、乗法及び除法に関して成り立つ性質などが有効に働いていることよきに気づき、学習に活用しようとしている。）</p>
---	--	--

(4) 「分数」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりできる。 ・ 整数の除法の結果を分数を用いて一つの数として表すことができることを理解している。 ・ 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解している。 ・ 分数を約分することができる。 ・ 分数の相等及び大小について知り、通分することで、分数の大小を比べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分数の性質に基づいて、数の相等及び大小関係について考察している。 ・ 整数の除法の結果を分数で表すことができることを見だし、分数の意味を拡張して考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整数の除法の結果を分数で表すことによって計算の結果をいつでも一つの数で表すことができるというよきに気づき、学習したことを、生活や学習に活用しようとしている。

(5) 「分数の加法及び減法」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 異分母の分数の加法及び減法の計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異分母の分数の加法及び減法について、分数の意味や表現をもとにしたり、一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを用いたりして、計算の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことなど、学習したことをもとに、異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考えたり、計算の仕方を振り返り多面的に検討したりしようとしている。

(6) 「数量の関係を表す式」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 式の中にある二つの数量の対応や変化の特徴について、表を用いて調べたり、二つの数量の関係を言葉の式で表したりすることができる。 数量の関係や法則などを簡潔かつ一般的に表すという式の役割について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な式で表されている関係について、二つの数量の対応の関係を表にまとめ、伴って変わる二つの数量の変化の仕方について考察している。 表に示された二つの数量の変化の仕方を基に、対応の関係を見だし、簡単な式に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な式で表されている関係について、二つの数量の対応の関係を表にまとめ、伴って変わる二つの数量の変化の仕方について、考察しようとしている。 表に示された二つの数量の変化の仕方を基に、対応の関係を見出し、簡単な式に表現しようとしている。

B 図形

(1) 「平面図形」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 図形の形や大きさが決まる要素について理解している 図形の合同について理解している。 合同な図形では、対応する辺の長さ、対応する角の大きさがそれぞれ等しいことを理解している。 二つの合同な図形について、ずらしたり、回したり、裏返したりして置かれた場合でも、その位置に関係なく、辺と辺、角と角の対応を付けることができる。 合同な三角形を、対応する辺の長さや角の大きさに着目し、作図することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形が「決まる」という意味を理解し、合同な三角形について、能率的なかき方を考え、合同な三角形をかくために必要な構成要素を見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の形や大きさが決まる要素について考えたことを振り返り、それらのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。
<ul style="list-style-type: none"> 三角形の三つの角の大きさの和が180°になることや、四角形の四つの角の大きさの和が360°になることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の三つの角の大きさの和が180°であることを帰納的に見いだしている。 四角形の四つの角の大きさの和が360°になることや五角形 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形や四角形など多角形についての簡単な性質について考えたことを振り返り、それらのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しよ

<ul style="list-style-type: none"> 四角形の四つの角の大きさの和は、三角形の三つの角の大きさの和を基にすれば求められることを理解している。 	<p>の五つの角の大きさの和が540°になることを、三角形の三つの角の大きさの和が180°であることを基に、演繹的に考えている。</p>	<p>うとしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 多角形や正多角形について知り、平面図形についての理解を深めている。 円と組み合わせることで、正六角形などを作図することができる。 どの円についても（円周）÷（直径）の値が一定であることや、その値を円周率ということ、円周率は3.14を用いることなどを理解している。 円周率を用いて、円の直径から円周を求めたり、円周から直径を求めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 円と組み合わせることで、正多角形を作図する方法を考えている。 円と組み合わせることで、正多角形の性質を見いだしている。 内接する正六角形と外接する正方形との関係を用いて、円周は直径の3倍より大きく4倍より小さいことを見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 円周率について考えたことを振り返り、そのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。

(2) 「立体図形」の具体的な内容のまとめりの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 角柱や円柱について知り、角柱や円柱の構成要素や、辺や面の位置関係について理解している。 角柱や円柱の見取図や展開図をかくことができる。 角柱や円柱を展開図を基に構成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 立体図形について、その違いに気づき角柱、円柱などに分類し、分類した立体図形の性質を見いだしている。 立方体や直方体を角柱として捉え直している。 辺や面のつながりや位置関係に着目して、角柱や円柱を構成したり、角柱や円柱の見取図や展開図をかいたりする方法を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な角柱や円柱を構成する要素に着目し、図形の性質を見だし、その性質を基に既習の図形を捉え直したことを振り返り、それらのよさに気付いている。 身の回りから、角柱や円柱を見付けようとしている。 角柱や円柱を構成したり、角柱や円柱の見取図や展開図をかいたりしようとしている。

(3) 「平面図形の面積」の具体的な内容のまとめりの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 必要な部分の長さを用いるこ 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形、平行四辺形、ひし形、 	<ul style="list-style-type: none"> 求積可能な図形に帰着させて

<p>とで、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積は計算によって求めることができることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を公式を用いて求めることができる。 	<p>台形の面積の求め方を、求積可能な図形の面積の求め方を基に考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現を見いだしている。 	<p>考えると面積を求めることができるというよさに気づき、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。
--	---	---

(4)「立体図形の体積」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 立方体や直方体の体積を公式を用いて求めることができる。 体積の単位（cm^3、m^3）について知り、測定の意味について理解している。 必要な部分の長さを用いることで、立方体や直方体の体積は計算によって求めることができることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 体積の単位や図形を構成する要素に着目し、立方体や直方体の体積の計算による求め方を考えている。 体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 立方体や直方体の体積についても、単位の大きさを決めると、その幾つ分として数値化できるというよさに気づき、学習したことを基に、立方体や直方体の体積の公式を導きだそうとしたり、生活や学習に活用しようとしていたりしている。

C 変化と関係

(1)「伴って変わる二つの数量」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 簡単な場合について、「一方が2倍、3倍、4倍、…になれば、他方も2倍、3倍、4倍、…になる」という比例の関係があることを知っている。 乗法の場面について、「一方が2倍、3倍、4倍、…になれば、他方も2倍、3倍、4倍、…になる」などのように言葉を用いて表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 求めたい数量に対して、一方の数量を決めれば他方の数量が決まるか、あるいは伴って一定のきまりで変化するかを観察することで、それと関係のある他の数量を見いだしている。 伴って変わる二つの数量の関係を表や式を用いて表し、数量の間の変化や対応の特徴を考察して規則性などを見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 求めたい数量に対して、伴って変わる数量の変わり方に関心をもち、特徴を見いだすことのよさに気づき、学習したことを基に、生活や学習に活用しようとしている。

(2) 「異種の二つの量の割合として捉えられる数量」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準
(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方について理解している。 単位量当たりの大きさについて理解している。 異種の二つの量の割合で捉えられる速さや人口密度などを比べたり表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じた、大きさの比べ方や表し方を考えている。 日常生活の問題（B活用問題）を、単位量当たりの大きさを活用して解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、単位量当たりの大きさをを用いて比べることのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。 単位量当たりの大きさを活用できる場面を身の回りから見つけようとしている。

(3) 「二つの数量の関係」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係とを比べる場合に割合を用いて表すことができることを理解している。 百分率の意味について理解し、百分率を用いて表すことができる。 比較量と基準量から割合を求めたり、基準量と割合から比較量を求めたり、比較量と割合から基準量を求めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の事象において、比べる対象を明確にし、比べるために必要となる二つの数量の関係を、比例関係を前提に、割合でみてよいかを判断し、二つの数量の関係に着目し、問題の条件や割合の求め方を基に、基準量と、比較量を筋道立てて見いだしている。 日常生活の二つの数量の関係を考察する問題場面において、割合の大小から判断したり、割合を用いた計算結果によって問題を解決したりした後、考察によって得られた結果を日常の事象に戻してその意味を考え、必要に応じて考察の方法や表現方法を見直している。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つの数量の関係に着目し、割合を用いて比べることのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。

D データの活用

(1) 「データの収集とその分析」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 円グラフや帯グラフの特徴とそれらの用い方を理解している。 円グラフや帯グラフを用いて表したり、円グラフや帯グラフを読み取ったりすることができる。 「問題-計画-データ-分析-結論」といった統計的な問題解決の方法を知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な題材から解決すべき問題を設定し、計画を立て、先を見通して観点を考えて必要なデータを集めている。 問題を解決するために適切な表やグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え問題に対する結論を考えている。 結論や集めたデータなどに対し、別の観点から見直したり再整理したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> データを収集したり分析したりした過程を振り返り、よりよい表現や結論の出し方を考えている。 統計的な問題解決のよさに気付き、生活や学習に活用しようとしている。

(2) 「測定した結果を平均する方法」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 平均は、幾つかの数量を同じ大きさの数量にならすことであることを理解している。 測定値を平均する方法を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある事柄について、より信頼できる値を求めるために、得られた測定値を平均する方法を考えている。 日常生活の問題（B活用問題）を、測定値を平均する方法を用いて解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> より信頼できる値を求めるために平均を用いるよさに気付き、測定値を平均する方法を用いることができる場面を身の回りから見付けようとしている。

VI 第6学年

A 数と計算

(1) 「分数の乗法及び除法」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 乗数や除数が整数や分数である分数の乗法及び除法の意味について、小数の乗法及び除法の計算の考え方を基にして、理解している。 分数の乗法及び除法の計算ができる。 分数の乗法及び除法について、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数の乗法及び除法について、数の意味と表現をもとにした、乗法及び除法に関して成り立つ性質を用いたりして、計算の仕方を多面的に捉え考えている。 逆数を用いて除法を乗法としてみたり、整数や小数の乗法や除法を分数の場合の計算にまとめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことをもとに、分数の乗法及び除法の計算の仕方を考えたり、計算の仕方を振り返り多面的に捉え検討したりしようとしている。 整数や小数の乗法や除法を分数の乗法の計算にまとめることができるよさに気づき、学習に活用しようとしている。

(2) 「数量の関係を表す式」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 数量を表す言葉や□、△などの代わりに、a、xなどの文字を用いて式に表すことができる。 文字に数を当てはめて調べる活動などを通して、文字には、小数や分数も整数と同じように当てはめることができることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面の数量の関係を、簡潔かつ一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりしている。 文字には、整数だけでなく、小数や分数も当てはめることができることを用いて数の範囲を拡張して考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決に文字を用いた式を活用することで、数量の関係や自分の思考過程を簡潔に表現できるよさに気付いている。 文字を用いた式を、進んで生活や学習に活用しようとしている。

B 図形

(1) 「平面図形」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 縮図や拡大図について、その意味や、対応する角の大きさは全て等しく、対応する辺の長さの比はどこも一定であるなどの性質を理解している。 方眼紙のます目を用いたり、 	<ul style="list-style-type: none"> 図形間の関係を考察し、縮図や拡大図の性質を見いだしている。 縮図や拡大図の性質をもとにして、縮図や拡大図のかき方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 縮図や拡大図を簡潔・明瞭・的確に描こうとしたり、実際には測定しにくい長さの求め方を工夫して考えたりしている。 実際には測定しにくい長さを

<p>対応する角の大きさは全て等しく、対応する辺の長さの比はどこも一定であることを用いて、縮図や拡大図をかくことができる。</p>	<p>・縮図や拡大図を活用して、実際には測定しにくい長さの求め方を考えている。</p>	<p>縮図や拡大図を用いると解決できるというよさに気付いている。</p>
<p>・線対称な図形について、1本の直線を折り目として折ったとき、ぴったり重なる図形であることや、対応する点を結ぶ線分は、対称の軸によって垂直に二等分されることなどを理解している。</p> <p>・点対称な図形について、対称の中心Oを中心にして180度回転したときに重なり合う図形であり、対応する点を結ぶ線分は全て、対称の中心を通り、その中心によって二等分されることなどを理解している。</p> <p>・線対称な図形や点対称な図形をかくことができる。</p>	<p>・対称という観点から既習の図形を捉え直し、図形を分類整理したり、分類した図形の特徴を見いだしたりしている。</p> <p>・図形を構成する要素の関係を考察し、線対称や点対称の図形の性質を見いだしている。</p> <p>・線対称や点対称の図形の性質をもとにして、線対称や点対称な図形のかき方を考えている。</p>	<p>・縮図や拡大図を、身の回りから見付けようとしている。</p> <p>・対称な図形を、簡潔・明瞭・的確に描こうとしている。</p> <p>・均整のとれた美しさ、安定性など対称な図形の美しさに気付いている。</p> <p>・対称な図形を、身の回りから見付けようとしている。</p>

(2) 「身の回りにある形の概形やおよその面積など」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準
(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・身の回りにある形について、これまでに求積してきた基本的な図形と捉えたり、それらの図形に分割した形として捉えたりすることで、およその面積や体積を求めることができることを理解している。</p> <p>・身の回りにある形について、その概形を捉え、目的に応じて、適切な桁数の計算をし、およその面積や体積を求めることができる。</p>	<p>・身の回りにある図の面積や体積を測定する際に、これまでに学習してきた基本的な図形と対応させ、筋道を立てて考えている。</p>	<p>・身の回りにある形について、その概形をとらえて、およその面積を求めようとしている。</p>

(3) 「平面図形の面積」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・円の面積は、(半径) × (半径) × (円周率) で求めることができることを理解し、円の面積を求めることができる。 ・公式が半径を一辺とする正方形の面積の3.14 倍を意味していることを、図と関連付けて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円の面積の求め方について、図形を構成する要素などに着目して、既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり、説明したりしている。 ・円の面積を求める式を読み、もとの円のどこの長さに着目すると面積を求めることができるのかを振り返って考え、簡潔かつ的確な表現に高めながら、公式を導いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円の面積を求める公式をつくる際に、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。 ・半径の長さがわかれば、公式にあてはめることで円の面積を求めることができるというよさに気付いている。 ・円の面積の求め方を、進んで生活や学習に活用しようとしている。

(4) 「立体図形の体積」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・角柱や円柱の体積について、立方体や直方体の場合の体積の求め方を基にして、計算によって求めることができることを理解している。 ・角柱や円柱の体積は、(底面積) × (高さ) で求めることができることを理解し、角柱や円柱の体積を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・角柱、円柱の体積の求め方について、図形を構成する要素などに着目して、既習の立方体、直方体の体積の求め方を基にしたり、図形の面積の学習と関連付けたりして考えている。 ・体積の求め方を振り返り、式から、どんな角柱も円柱も、(底面積) × (高さ) で求めることができることに気付き、公式として捉え直している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・角柱、円柱の体積を求める公式をつくる際に、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。 ・底面積と高さがわかれば、公式に当てはめることで角柱や円柱の体積を求めることができるというよさに気付いている。 ・角柱、円柱の体積の求め方を、進んで生活や学習に活用しようとしている。

C 変化と関係

(1) 「伴って変わる二つの数量」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・比例の意味として、二つの数量A, Bがあり、一方の数量が2倍, 3倍, 4倍, …と変化するのに伴って、他方の数量も2倍, 3倍, 4倍, …と 	<ul style="list-style-type: none"> ・伴って変わる二つの数量について、比例の関係にある数量を見いだしている。 ・比例の関係をを用いて問題を解決する際に、目的に応じて、 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や学習に、比例が活用できる場面を見付け、能率のよい処理の仕方を求め、積極的に比例の関係を生かしていこうとしている。

<p>変化し、一方が、$\frac{1}{2}$, $\frac{1}{3}$, $\frac{1}{4}$, …と変化するのに伴って、他方も、$\frac{1}{2}$, $\frac{1}{3}$, $\frac{1}{4}$, …と変化することを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 二つの数量の対応している値の商に着目すると、それがどこも一定になっていることを理解している。 • 比例の関係を表す式が、$y = (\text{決まった数}) \times x$ という形で表されることや、グラフが原点を通る直線として表されることを理解している。 • 比例の関係を利用することで、手際よく問題を解決できる場合があることや、比例の関係をを用いて問題を解決していく方法を知っている。 • 反比例の意味として、比例の場合に対応して、二つの数量 A, B があり、一方の数量が 2 倍, 3 倍, 4 倍, …と変化するのに伴って、他方の数量は $\frac{1}{2}$, $\frac{1}{3}$, $\frac{1}{4}$, …と変化し、一方が、$\frac{1}{2}$, $\frac{1}{3}$, $\frac{1}{4}$, …と変化するのに伴って、他方は、2 倍, 3 倍, 4 倍, …と変化することを知っている。 • 二つの数量の対応している値の積に着目すると、それがどこも一定になっているということを知っている。 • 反比例の関係を表す式が、$x \times y = (\text{決まった数})$ という形で表されることや、グラフについて、比例のグラフとの違いを知っている。 	<p>式, 表, グラフなどの適切な表現を選択して, 変化や対応の特徴を見いだしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日常生活や算数の学習などの比例が活用できる場面において, 比例の関係を生かして問題を解決している。 (・ 比例を用いた問題解決の方法や結果を評価し, 必要に応じて, 目的により適したものに改善している。) 	<ul style="list-style-type: none"> • 目的に応じて適切な表現を用いるなど, 式, 表, グラフの表現の特徴やそのよさに気付いている。 (・ 問題解決の方法や結果を評価し, 必要に応じて, 目的により適したものに改善している。)
--	---	--

(2) 「二つの数量の関係」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 二つの数量の大きさを比較し、その割合を表す場合に、簡単な整数などの組を用いて表すことを理解している。 数量の関係を比で表すことができる。 比の値を用いて、等しい比かどうかを確かめられることを理解し、等しい比をつくることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 二つの数量の関係を、比例の関係を前提に、割合でみてよいかを判断している。 二つの数量の関係について、大きさを比較し、その割合を簡単な整数の組として表している。 目的に応じて、図や式を関連付けたり用いたりしながら、数量の関係を考察し、結論を導いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や学習に、比が活用できる場面を見付けたり、生かしたりしながら、比による数量の関係への着目の仕方に親しんでいる。 二つの数量の関係を捉える際に、整数の組で捉えた方が、数量の関係が見やすかったり、処理がしやすかったりする場合があるという比のよさに気づいている。

D データの活用

(1) 「データの収集とその分析」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 平均値、中央値、最頻値などの代表値の意味や求め方を理解している。 度数分布を表す表やドットプロットや柱状グラフの特徴及びそれらの用い方を理解している。 目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど、統計的な問題解決の方法を知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある不確定な事象から統計的に解決する問題として設定し、計画を立て、データの集め方や分析の仕方を見通して必要なデータを集めている。 データの種類や項目の数を考え、目的に応じて表やグラフに表し、代表値や全体の分布の様子から、問題に対する結論を判断している。 結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを、別の観点や立場から批判的に考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> データを収集したり分析したりした過程を振り返り、よりよい表現や結論の出し方を考えている。 統計的な問題解決のよさに気付く、生活や学習に活用しようとしている。

(2) 「起こり得る場合」の具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 順序や組み合わせなどの事象について、落ちや重なりがないように、図や表などを用い 	<ul style="list-style-type: none"> 落ちや重なりなく調べるために、観点を決め、順序よく整理して考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 図、表などを用いて表すなどの工夫をしながら、落ちや重なりがないように、順序よく

<p>て、規則に従って正しく並べたり、整理して見やすくしたりして、全ての場合を調べる方法を知り、調べることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図や表を適切に用いたり、名前を記号化して端的に表したりして、順序よく筋道立てて考えている。 	<p>調べていこうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 順序や組み合わせの求め方を、進んで生活や学習に活用しようとしている。
--	---	--

第2章 学習評価に関する事例について

1 事例の特徴

第1編第1章2(4)で述べた学習評価の基本的な方向性を踏まえつつ、平成29年改訂学習指導要領の趣旨・内容の徹底に資する評価の事例を示すことができるよう、本参考資料における各教科の事例は、原則として以下のような方針を踏まえたものとしている。

○ 単元（題材）に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、児童生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している

本参考資料で提示する事例は、いずれも、単元（題材）の評価規準の設定から、最終的に学習過程で得た評価情報を総括するまでとともに、評価結果を児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすまでの一連の学習評価の流れを念頭においたものである。なお、各教科とも事例の一つは、この一連の流れを特に丁寧に示している。

○ 観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について示している

報告や改善等通知では、学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要であることが示された。このため、観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について、「指導と評価の計画」の中で、具体的に示している。

○ 評価方法の工夫を示している

各教科・科目の評価の中で、ワークシートや作品などの評価材料をどのように活用したかなど、教科の特性に応じて、評価方法の多様な工夫について示している。

2 各事例概要一覧

事例1 キーワード 指導の計画から評価の総括まで

「あまりのあるわり算」(第3学年) A 数と計算

第3学年「A数と計算」の「(4)除法」の中の単元「あまりのあるわり算」を例として、指導と評価の計画の作成や、指導と評価の一体の進め方、評価の総括の仕方について解説する。「知識・技能」, 「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点について、バランスよく評価することと、教師が児童を評価し、指導の改善に生かしたり、記録をもとに総括したりすることに対して、負担が重くならないように配慮して作成した計画を示している。また、単元における評価の総括を行う具体例を示している。

算数科 事例 1
 キーワード 「指導と評価の計画から評価の総括まで」

単元名
 あまりのあるわり算

内容のまとめり
 第3学年 [A 数と計算] (4)「除法」

1 単元の目標

- (1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。
- (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。
- (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ② 除数と商が共に一位数である除法の計算が確実にできる。 ③ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。	① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。 ② 余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。	① 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。 ② 除法の場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。「わり算探し」など

3 指導と評価の計画（10時間）

観点別学習状況の学習状況を記録に残す場面等を精選するためには、単元のまとめりの中で適切に評価を実施できるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、計画的にタイミングや方法を考えておくことが非常に重要であり、以下のとおり参考となるような指導と評価の計画を作成した。

なお、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことは非常に重要であるため、児童生徒の学習状況を記録に残す場面以外においても、教師が児童生徒の学習状況を確認する必要がある。

(1) 算数科における単元の指導と評価の計画の作成

- ① ねらいに応じた評価項目の精選と、記録に残す評価の機会の精選

算数科の学習の評価をするに当たって、毎時間で全ての児童に対して三つの観点全てについて評価のための情報を収集する必要はなく、そもそも現実的でない。実際には、単元の目標を分析して、各時間のねらいにふさわしい1～2観点到に評価項目を精選する必要がある。

また、単元を通して繰り返し出てくる評価の内容については、毎回全ての児童に対して記録に残すことを行うと大変である。そこで、主に「努力を要する」児童を確認し、その後指導に生かすために評価する機会と、学級全員の児童の評価を、総括の資料にするために記録に残す機会と区別することとした。下記に示す「指導と評価の計画」においては、指導に生かす評価の代表的な機会については「・」を、その中で特に学級全員の児童の評価を、総括の資料にするために記録に残す評価の機会には「○」を付けて、各々の観点の評価の機会を示している。

② 観点到に応じた適切な評価場面と評価方法の選択

算数科における評価方法について、「知識・技能」の評価に適する方法として、児童の活動の様子やノート等の記述内容、ペーパーテストによる方法があり、また、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の評価に適する方法としては、児童の活動の様子やノート等の記述内容の観察などによる方法がある。

各時間の評価については、1時間の授業の中のどの場面（評価場面）で、どんな児童の姿が見られれば、「おおむね満足できる」状況と評価するのか、また、その評価資料をどんな方法（評価方法）で収集するのかを計画しておくことが重要である。

③ 観点到に応じた適切な「指導と評価の計画」の作成

「知識・技能」については、「○」の評価の機会を単元末に設定することとした。なぜなら、算数科における知識は単元を通して繰り返し使う中で、定着し理解が深まり、また技能も繰り返し使うことで習熟し、生きて働く確かなものとなっていくからである。

しかし、単元末のみで評価するのではなく、毎時間の机間指導などにおいて、個人解決時におけるノートの記述内容や、適用問題も交えながら児童の学習状況を把握し、特に「努力を要する」状況と考えられる児童には確実に習得できるように指導し、個々の児童の指導の補完を行うことが大切である。そして、「知識・技能」の評価の妥当性を確保することが望ましい。

「思考・判断・表現」については、授業中の問題発見や解決の過程において児童が発揮するものであるため、授業中の発言や話し合いなどの活動の様子と、個人解決時の問題解決の様子、適用問題や活用問題の解決の様子や学習感想などの振り返りといったノート等の記述内容から評価の情報を収集することが望ましい。その記述内容が学習内容ごとに「おおむね満足できる」（B）状況であるかなどを、それぞれ判断していくことが重要である。また、新たな問いに気づいたり、発展的・統合的に見て数学的なよさに気づいたりすることは、児童の発言といった形で表出されることが多い。このような「思考・判断・表現」において「十分満足できる」（A）と判断される状況は、日々の問題解決における指導者の観察記録に頼ることになる。そこで、「思考・判断・表現」については、単元末ではなく、単元の評価規準の①や②の評価内容ごとに、授業中の問題発見や解決の過程を行う時間において、主として「○」の機会を設定することとした。

「主体的に学習に取り組む態度」は、授業中の問題発見や解決の過程において、既習事項を活用したり、話し合いの最中に他者の意見を参考にしたりする姿等に表れたり、振り返ってよりよい表現や方法を考えたり、新たな場面を見いだしたり、日常生活の場面において活用しようとしたりす

る姿等に表れる。そこで活動の様子やノート等の記述内容から評価の情報を収集することが考えられる。

また「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、単元を通して働かせた数学的な見方・考え方が豊かになる算数科の特性から、単元前半から後半にかけて高まることが考えられる。そこで、指導と評価の計画を作成するに当たって、単元の終わりに「○」の評価の機会として設定する。

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	余りがある場合でも除法を用いてよいことや答えの ・ の見つけ方を具体物や図などを用いて考える。		・ 思①（活動観察，ノート分析）	・ 態①（活動観察，ノート分析）
2	余りがある場合の除法の式の表し方や，余りなど用語の意味を知る。	・ 知①（ノート分析）		
3	余りと除数の関係を理解する。 ・ 余りと除数の関係を調べる。	・ 知③（ノート分析）		
4	等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考える。 ・ 等分除の場面で，答えの見つけ方を考える。		○ 思①（活動観察，ノート分析）	
5	割り切れない場合の除法計算について，答えの確かめ方を知る。	・ 知②（ノート分析）		
6	日常生活の場面に当てはめたときに，商と余りを		・ 思②（活動観察，ノート分析）	○ 態①（ノート分析）
7	・ どのように解釈すればよいかを考える。 ・ 商を＋1する場合やしない場合について，それぞれ考える。			
8	学習内容の定着を確認し，理解を確実にする。（章末問題）	・ 知①②③（ノート分析）		
9	学習内容の定着を確認する。（評価テスト）	○ 知①②③（ペーパーテスト）	○ 思②（ノート分析）	
10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり，解決し合ったりする。			○ 態②（ノート分析）

* 評価の観点の略称は以下の通り。

知識・技能…「知」 思考・判断・表現…「思」 主体的に学習に取り組む態度…「態」

* 評価方法については以下の通り。

活動観察：机間指導等を通じて捉えた児童の活動の様子，話し合い時の児童の発言，ノートの記述などに基づいて評価する。

ノート分析：授業後に児童のノートやワークシートなどを回収し評価する。

ペーパーテスト：単元で学習した知識・技能などの内容が定着しているかを評価する。

4 観点別学習状況の評価の進め方

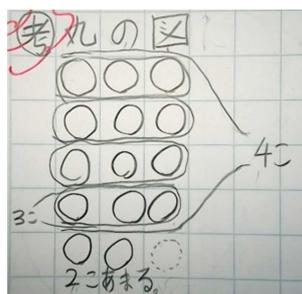
(1) 「あまりのあるわり算」の単元の指導と評価の計画の作成

ここでは、第3学年の「A 数と計算」領域の単元「あまりのあるわり算」の指導と評価の事例を取り上げる。第3学年では、これまでに除法について学習し、包含除や等分除といった除法の意味やそれが適応される場面について考察してきている。本単元では、除法には割り切れない場合があり、その場合には余りを出すことを理解し、確実に計算できるようにする。また、余りの大きさや計算の確かめの仕方、余りの意味について考え、日常生活に除法を用いようとする態度を育てる。

本単元の評価方法としては、主に授業中に行うことのできる方法として、余りのある除法の意味や計算の仕方を考える学習活動（ブロックの操作【図1】やノート記述内容【図2】）の観察、児童の話し合い【図3】や発表、さらに互いの発表について発言する様子の観察などを行うこととした。また、主に授業後に行うことのできる方法として、ノート記述の分析、適用問題の解決状況の分析などを用いることとした。



【図1】



【図2】



【図3】

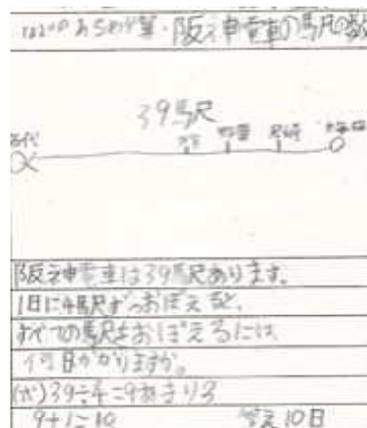
本単元では、第1時から第3時は余りのある除法の意味について考え、第4時ではそれらの総括的な学習を行う。そこで、「思考・判断・表現」の観点①について、第3時までを「・」、第4時を「○」の評価の機会とした。

また、「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面として、第5時までには、具体物や図などを用いて除法の意味を考える学習をしてきている。第6時、第7時では、それまでの学習を基に、余りの処理について、児童が主体的に具体物や図などを用いて考えることが期待される。そこで、「主体的に学習に取り組む態度」の観点①について、第5時までを「・」、第6時、第7時を「○」の評価の機会とした。ここでは、第6時、第7時の両方で記録を残す評価の機会とするのではなく、児童の学習状況に合わせてどちらか一方の授業で全ての児童について評価のための情報を収集する。

さらに、第8時、第9時は単元の学習のまとめの段階であるため、「知識・技能」の全ての観点について、第8時を「・」、第9時を「○」の評価の機会とした。単元のまとめの段階で、児童が学習した内容が定着している状況にあることを確認すること重要だからである。

例えば、「努力を要する」状況と判断された児童がその後の学習により「おおむね満足できる」状況となっている場合、それまでの評価を見直し、修正する必要がある。また、単元でのそれまでの学習の過程において、評価の記録が十分に取れていない場合、児童の状況をあらためて確認するなどして、単元における評価の記録の補充することが望ましい。

その上で第10時には、除法を用いようとする態度を育むために、除法の場面を身の回りから見付ける活動などに取り組む。具体的には、「主体的に学習に取り組む態度」の観点②について、算数日記【図4】などで把握することで、「○」の評価の機会とした。



【図4】

(2) 指導に生かす評価の計画

指導と評価の計画の中で、指導に生かす評価の機会については、「・」で示している。学習内容を確実に習得できるようにするために、単元を通して適宜行うことが大切である。この事例では、次のように考えられる。第1時から第3時までは「思考・判断・表現」の「・①」除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて

表現している」ことを評価する時間と位置付けている。評価方法としては、児童の活動の様子やノートの記事内容を観察することで評価していくことになる。観察による評価をする場合、児童が何ができているのかを具体的に想定しておく必要がある。例えば、この場面では、「余りがある場合の除法について、ブロックを操作したり、図や式に表したものを指し示したりしながら、自分の言葉や式、図、具体物を用いて筋道立てて発表したり、友だちに説明したりしている」ことなどである。

単元の学習を通して、全ての児童がそのような考えや表現をできるようになるために、「努力を要する」(C) 状況の児童に対する指導の手立てを計画しておく必要がある。例えば、既習の12÷3のような割り切れる除法の場合のブロックの操作の方法を想起させたり、○などの図を用いて場面を表すように支援したりすることである。

(3) 記録に残す評価の計画（観点別評価の進め方）

(ア) 「知識・技能」の評価

本単元では、第9時の学習のまとめで「知識・技能」の観点について「○」の評価の機会としている。「知識・技能」の評価は、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の評価に比べ、単元末におけるテストになじみやすいからである。

しかし、先述したとおり、テストのみで評価するのではなく、毎時間の机間指導などにおいて児童の学習状況を把握し、ノートの記述や適用問題からの情報も得ながら、「知識・技能」としての評価の妥当性を確保することが望ましい。その上で、計算の習熟具合や立式の確実性などから、各学校ごとに、児童の実態によって数値的な基準を設け、評価を進めることが大切である。

(イ) 「思考・判断・表現」の評価

「思考・判断・表現」の評価は、①や②の評価内容ごとに「○」の機会を設定した。本単元では、第4時の等分除についても適用できるかを考える学習で①を、第9時の日常生活へ広げて考える学習で②を「○」の評価の機会とした。それぞれの評価の機会を独立したものと捉えるのではなく、関連させて評価することが重要である。

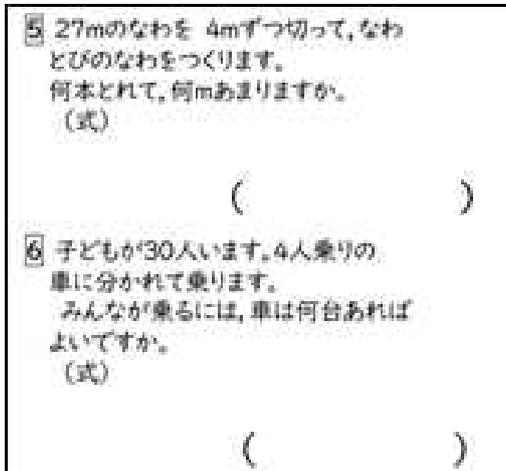
第4時では、余りのある除法の意味や計算の仕方について、ブロックを操作して考える。この時間の指導のねらいを「等分除についても割り切れない場合の除法が適用できるかを考える」としている。自力解決の場面（評価場面）でブロックを操作しながら余りがある場合の除法について考えている学習活動の様子【図2】や、ノートの記述【図3】（評価方法）などから評価する。

具体的には「等分除の場面でも割り切れない場合の除法が適用できることを、ブロックや図を用いて表現している」場合は「B」と評価とし、「包含除との違いを明らかにしながら、割り切れない場合の除法が適用できることを説明している」記述が見られたり、「相手の説明が妥当かどうかを考えながら発言している」様子が見られたりなどした場合は「A」と評価とする。また、自力で解決したことを発表した後、互いの発表をもとに類似点を見いだした記述が、振り返りや学習感想などに見られた場合も「A」評価の対象とする。

その上で、そのような学習状況やノート記述がない「努力を要する」(C)状況の児童に対して、どのように指導が必要か想定しておくことが重要である。第4時では、自力解決の場面で児童の解決状況に応じて、ブロックを使って解決してもよい環境をつくり、「はじめの数はいくつですか。」「一人分はいくつですか。」「余りと割る数には、どのような関係がありますか。」と助言しながらブロックを操作させるなどの指導の手立てを計画しておくことが重要である。また、解決方法をノートに記述することが難しかった児童には、互いの考え方を交流する時間の中で、納得した解決方法をノートに書かせた上で、その方法を模倣したり、それらを生かしたりして適用問題を自力で解決することができていればおおむね満足な状況と評価する。

また、「思考・判断・表現」の評価のための情報を単元末のペーパーテストで収集する際には注意が必要である。ただ単に文章問題の式が立てられているだけなら普通は「知識・技能」で評価する。問題の内容に応じて、「知識・技能」で評価すべきか、「思考・判断・表現」で評価すべきかを吟味する必要がある。本単元のように、「知識・技能」をもとに、余りの処理を判断するといった学習内容であれば、ペーパーテストを用いて「思考・判断・表現」を評価することもできる。

例えば、【図5】のようなペーパーテストを用いた場合、問題5について、式が立てられたら、「知識・技能」の「①包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている」が「B」である。また、問題6で、余りを考慮して答えを求め、さらに、「その理由を書きなさい」という問題に対して、「余りの2人も車に乗るから、もう1台必要」などと記述していれば、「思考・判断・表現」の「②余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている」を「B」と評価することができる。一方、ペーパーテストだけで「思考・判断・表現」の「A」評価を見極めることは難しい。「A」の評価については、あくまで授業中の問題発見や解決の過程において記録された情報をもとに評価することが望ましい。



【図5】

単元を通して習得した「知識・技能」を用いて解決できるのか、さらにそれらをもとに「思考・判断・表現」を用いて解決しているのかを見極め、評価に生かすことが重要である。

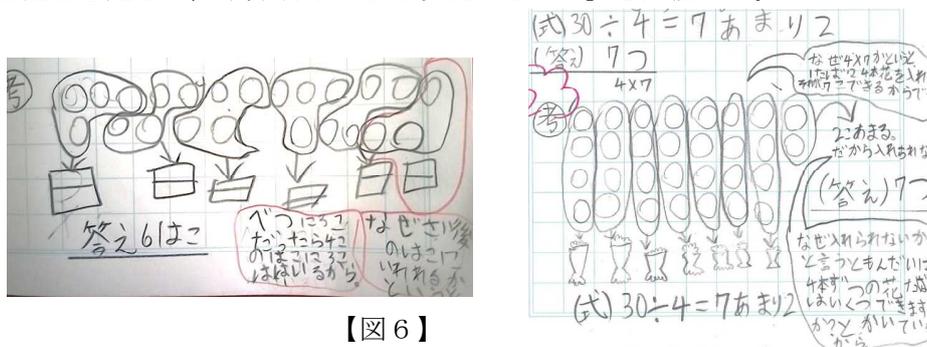
(ウ)「主体的に学習に取り組む態度」の評価

先述した通り「主体的に学習に取り組む態度」は、数学的な見方・考え方を、単元を通して繰り返し働かせていくという算数科の学習の特性から、単元前半から後半にかけて高まることが考えられる。そこで、本単元においては、指導と評価の計画を作成するに当たって、単元の後半に「O」の評価の機会として設定した。具体的には、第6時、第7時の余りの処理について、ブロックや図

などを用いて考える学習，第10時の身の回りから余りのある除法を見いだす学習を「主体的に学習に取り組む態度」の「○」の評価の機会とした。

第6時，第7時の余りの処理について考える学習では，「除法を活用して，被除数と除数の関係を考え，ブロックを操作したり図に表したりしながら，言葉や図，式を使って筋道立てて考えようとしている」状況を「B」と評価する。ここでは，自力解決の場面（評価場面）でブロックを操作しながら余りがある場合の除法について考えている学習活動の様子を観察したり，個人解決のノートの記述内容を分析したり（評価方法）する。またその際，第6時から第7時にかけて，「よりよい考えや表現に書き換えようとしていたり，他者と比較して自分や他者の見方・考え方のよさに気づいていたり，相手に応じて分かりやすく説明しようとしていたりしている」などの場合は，「A」の状況としている。

例えば，【図6】の児童は，第6時から第7時にかけて○図の表し方が乗法的なものへと洗練されている。互いに解決方法を伝え合う中で，他者の表現のよさに気づき，よりよいものへと高めていることが分かる。さらに，相手に応じて分かりやすく説明するために，言葉や式を書き加えながら整理している記述も見られ，十分満足できる状況から「A」と評価した。



【図6】

なお，「主体的に学習に取り組む態度」の評価は，特に学習活動における状況の把握が大切である。そこで，チェックリストや座席表などを用意し，評価資料として児童の反応を書き込めるようにしておくことなどが考えられる。「主体的に学習に取り組む態度」の評価においても，先に述べた「思考・判断・表現」の評価においても，学習活動の状況を簡潔に記録しておくことで，単元末の評価に活用していくことができる。

（4）指導に生かす評価と記録に残す評価の関係 評価の補完

指導と評価の計画に沿って評価を進めていくことが基本であるが，それだけにとどまらず，評価の補完をすることも大切である。

例えば，後述する【資料1】のK児は，第4時において，余りのある除法の計算の仕方について，除法の学習をもとに，ブロックを操作しながら考えようとする様子が見られるが，包含除と等分除を混同している様子が見られたため，「思考・判断・表現」の観点を「C」と評価していた。しかし，第5時，第6時で，K児の自力解決の様子をノートの記述をもとに確認したところ，題意を捉えて，包含除の図を表すことができいたため，第4時の「思考・判断・表現」の観点について，「おおむね満足できる」状況（B）と判断し修正した。さらに，単元末にペーパーテストによって，評価資料を収集し，最終的な学習状況を確認した。

このように各時間における観点別の評価を進めるに当たっては，それぞれの時間のねらいに照らしながら，ある観点について重点的に評価したり，補足的に評価したりすることが重要である。ま

た、ある観点についての各児童の状況が、指導を進めるにつれて変化していく様子を捉えることも重要である。

5 観点別学習状況の評価の総括

観点別学習状況の総括については、単元ごとに総括したのち学期ごとに総括してもよいし、幾つかの単元をまとめて一括して学期ごとに総括してもよい。ここでは単元末に総括する仕方を示す。

単元末における観点別評価の総括としては、基本的には単元全体を通して、それぞれの観点について、「A」が半分を超えていれば、「十分満足できる」状況と総括し、「C」が半分を超えていれば、「努力を要する」状況と総括する。どちらも該当しない場合は、「おおむね満足できる」状況と総括する。ただし、単元後半に高まりを示すことが予想される観点を総括する場合や、単元の学習内容のまとめとしている状況の評価を含めて総括する場合には、そのことを考慮して総括することが適切である。例えば、各時間の観点別評価の「A」と「B」の数が全く同じであっても、単元前半から単元後半の高まりを考慮して、「A」と総括する場合もある。

次に、具体的に総括の例を挙げる。【資料】は、本単元の各時間において、例えば、K児とT児の評価の資料を一つの表にまとめたものである。本単元における観点別評価の総括は、表の一番右に示している。

【資料】各時間の評価と単元末の評価（K児とT児）

	次 時	第1次					第2次		第3次			児童の様子に関する特記	単元の評 価の総括
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
K 児	知									B		・余りのある除法の計算が確実にできる。(第9時)	B
	思			*	C					B		・図を使って説明する際に、等分除と包含除を混同しており、指導が必要だった。(第3・4時)	B
	態						B	B			C	・ブロックや図を使って進んで考えようとしていた。(第1時)・日常生活に結び付けることは難しい。(第10時)	B
T 児	知									A		・余りのある除法の計算が確実にできる。(第9時)	A
	思				B			*		A		・余りの意味について自力解決の段階では誤答だったものの、対話的な学びの中で気づくことができた。(第7時)	A
	態						B	B			A	・日常生活に結び付け、紹介することができた。(第10時)	B

K児については、「知識・技能」の観点は評価テストでの評価で判断して「B」と総括した。また、「思考・判断・表現」の観点については、「C」が一つ「B」が一つだが、単元後半の高まりを考慮して「B」と総括した。「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、「B」が二つ、「C」が一つなので「B」と総括した。総括的评价は、あくまでも記録に残す評価「○」をもとに判断する。

しかし、実際に指導を進める上で行ってきた評価を参考にすることもある。そこで、指導に生かす評価をした時間（＊）ではCの子だけを把握（記録）しておき、その後の変化の様子を捉えることが大切である。ここでは特記事項にそのことを示している。

T児については、「知識・技能」の観点は「A」,「思考・判断・表現」の観点は、第7時（＊）において、自力解決の段階では正答にたどり着くことができなかつたものの、その後の対話的な学びの中から解決方法に気づき、第9時では確実に解決することができていたため、「A」と総括した。

「主体的に学習に取り組む態度」の観点は、Aが一つでBが二つなので「B」と総括した。

単元における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが求められる。